

授業科目 がん看護学特論 I	科目概要・形式 2 単位 30 時間	配当年次 1 年 前期
科目責任者	鳴井ひろみ	
担当者	鳴井ひろみ、平典子、浅野美知恵、山崎智子	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>がん患者・家族の看護に用いられるストレス・コーピング理論、危機理論、喪失、悲嘆等の理論について理解を深めるとともに、実践および研究への適用について探究する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、がん看護の質向上をめざした実践・研究・教育への活用方法を探求する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん医療・看護の現状と課題、今後の展望について説明することができる。 2) がん患者・家族への看護に主に用いられる概念・理論について説明することができる。 3) がん看護専門看護師としてがん患者・家族に提供する専門的な看護の質向上のために、がん看護領域における主要な概念・理論を看護実践・研究・教育に活用する方法を検討できる。 		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p><がん患者とその家族に対する看護の現状と課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 回 : がん医療・看護の現状と課題 (鳴井) 2 回 : がん看護専門看護師の歴史と役割 (平) <p><がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論の理解と活用></p> <p>以下の主要な概念・理論について、文献検討による概説、概念・理論を用いたがん看護に関する研究論文の検討、概念・理論を用いた事例分析を行いプレゼンテーション資料を作成する。これをもとに、がん患者とその家族に対する概念・理論を適応した看護介入の展開方法および研究・教育への活用方法について討議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 回 : がんサバイバーの理解 (平) 4~6 回 : ストレス・コーピング理論の理解と活用 (鳴井) 7~9 回 : 危機理論の理解と活用 (鳴井) 10~11 回 : 悲嘆・喪失理論の理解と活用 (山崎) 12~13 回 : セルフケア理論の理解と活用 (鳴井) 14~15 回 : エンパワーメントの理解と活用 (浅野) 		
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>講義の中で適宜紹介する。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>講義・ゼミへの取り組み状況 30%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 40%、レポート 30%で総合的に評価する。</p>		
<p>5. 受講要件</p> <p>がん看護専門看護師コースの学生は必修</p>		
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>相談があれば個別に対応する。</p>		
<p>7. その他</p> <p>課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。</p>		